

“鳥なのにトラ柄？ 妖怪ぬえの正体と柵の秘密”



聖徳学園中学校 1 年

高橋 愛莉

1. 研究の動機

東京都井の頭自然文化園は、私が赤ちゃんの頃から訪れている動物園です。ふれあいモルモットやミーアキャット、リスの小路が私のお気に入りです。久しぶりに家族と訪れた際、ふとある看板に目が留まりました。その説明看板には、夜に妖怪のように鳴く鳥（“ヒーッ、ヒーッ”）と書いてありました。「トラツグミ」トラ柄のちょこんとしたかわいい鳥なのに妖怪？ そのさえずりを聞いてみたい、なぜ妖怪と呼ばれているのか調べてみたいと興味を持って、自分なりに研究してみようと思いました。

また、トラツグミの写真をきれいに撮ろうとしても鳥用の柵があり、細かい目の柵なので写真がうまく撮れません。隣のフクロウなどの鳥用の柵の幅は大きいのにトラツグミの柵は細かくなっていたので不思議に思いました。なぜこのように鳥の種類によって、鳥用の柵の網目の大きさが違うのかについても調べてみたいと思いました。

2. 研究・調査方法

- 東京都井の頭自然文化園のトラツグミの行動観察（複数日に分けて）
- 東京都井の頭自然文化園のトラツグミの説明看板をもとに調査
- 東京都井の頭自然文化園内の色々な鳥柵、小動物用柵の観察
- 東京都井の頭自然文化園 副園長さんへの質問
- インターネットでの疑問調査、鳴き声、鳥の生息地の検索

3. 文化園での観察

- トラツグミの鳥柵の前での観察

・トラツグミは、20～25cm ほどの大きさ。一般的なサイズは 30cm ほどだが小さく見えた。

・体の表面は、黒と黄色のトラのような模様。羽にも模様。体の下面は白っぽいが斑点は全身にある。脚は薄い赤色。

・“ピ、ピ”という鳴き声が地声でスズメに似ていると思った。

・ちょんちょんとした歩き方

・同舎内のカラスバトが近づいてきたら即座に羽を広げて、自分より大きい鳥に対してもひるまず対決をして縄張りを守っていた。



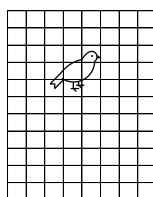
井の頭自然文化園のトラッグミ（写真）

■ 東京都井の頭自然文化園 副園長さんから教えていただいたこと

- ・東京都井の頭自然文化園に現在いるトラッグミは、江戸川区自然動物園で保護されたトラッグミで、2017年6月1日に井の頭自然文化園へ来ました。
- ・東京都内でNPO法人により保護されたとのこと。その時は骨折をしていた。
- ・絶滅危惧種保護対象の鳥のため、一般で保護することや触ることは禁止されています。

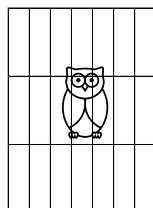
■ 鳥柵の大きさについて観察

- ・トラッグミの鳥柵は、縦横1 cmぐらいの正方形で幅が細かい



スケッチ（トラッグミの柵）

- ・フクロウ、タカの鳥柵は、縦10 cm、横3 cmぐらいの長方形で幅が大きい



スケッチ図（フクロウの柵）

4. 観察・調査から分かったこと

【トラツグミ（虎鶇）について】

英名：White's Thrush

英国の博物学者 ギルバート・ホワイトにちなんで名づけられました。

学名：Zoothera aurea

古代ギリシャ語 Zoon(動物) theras(ハンター) ラテン語 aureus(黄金)

分類：スズメ目ツグミ科

分布：東アジア、東南アジア、ロシア南東部、日本

平地から山地のよくしげった林のなかでくらし、秋や冬には市街地の公園や広い庭に来て、えさをとることもあるそうです。森の中で夜中に細い声で“ヒーッ、ヒーッ”という口笛のようなさえずりで鳴くため、「鶇（ぬえ）」という妖怪の声だと思われ、気味悪がられることがあったそうです。「古事記」「万葉集」「平家物語」と得体の知れないものと語り継がれてきました。深夜にブランコにでも乗っているような寂しいさえずりに夜中にトイレに行けない子供たちが多かったそうです。あまり姿を見せないで鳴き声だけで不吉な鳥とも呼ばれ、鶇塚が今でも残っているそうです。

【トラツグミの鳴き声について】

井の頭自然文化園のトラツグミからは、妖怪のように鳴くさえずり（“ヒーッ、ヒーッ”）を聞くことが出来ませんでした。通常の“ピ、ピ”とのさえずりは聞くことができました。

観察している最中に、一緒の鳥柵の中にいるカラスバトと対決している声を聴くことが出来ました。普段はかわいらしい“ピ、ピ”とさえずりしていたのですが、カラスバトに向かって“ピ、ピ、ピ、ピ、ピ”とたくさん鳴いていたので、自分の縄張りを主張したり、えさを取られないように喧嘩をしているかのように見えました。



トラツグミとカラスバトとのけんか

副園長さんのお話しでは、井の頭自然文化園のトラツグミは、“ヒーッ、ヒーッ”と鳴いた声をまだ聞いたことがないそうです。“ヒーッ、ヒーッ”は鳴くのは、オスのみとのことなので、まだ性別は不明みたいです。

夜に“ヒーッ、ヒーッ”と鳴くとのことですが、雨天や曇っている時には日中でも“ヒーッ、ヒーッ”と鳴いていることがあるかもしれないとのこと。

【トラツグミのダンス】

トラツグミを見ていた時、コンクリートから地面の上に飛んできました。もぞもぞと背中が動く時がありました。ダンスとまではいきませんが、不思議な動き。餌を探しているのかな。

【トラ柄】

トラツグミの模様は、トラ柄で目立つと思っていましたが、自然の中では木々や葉の中にとけこむ保護色となっていました。触れないのが残念ですが、黒い鱗のようなものもあって、恐竜のような感じもしました。外敵から身を守るのに適していたことが分かりました。

Tokyo Zoo Net ニュースでひなが生まれた様子を読みましたが、生まれてからどのぐらいからトラ柄が分かるようになるのかまた知りたいことが増えました。

【鳥柵の大きさの違いについて】

- 鳥柵の大きさが違うのは、それぞれの鳥の大きさ、性格などの特長の違いによるものではないかと考えました。また、鳥柵の役割についても考えてみました。



- ① 外に逃げるのを防ぐ
⇒鳥がケガをしてしまう。来場者にケガをさせてしまう。
- ② 外部からの侵入者を防ぐ
⇒天敵から鳥を守る。
- ③ 外部からのバイ菌を防ぐ
⇒人間の手や文化園で飼育していない保菌しているかもしれない野鳥などからバイ菌が移ってしまい、鳥が病気になってしまう。
- ④ 来場者に観察してもらう
⇒来場者が少しでも同じ場所、同じ空気で観察できるように、それぞれの鳥柵の大きさをできる限り最大にしている。ガラス窓にしている場合は、鳥柵が無く、良く見えるが鳴き声などを聞くことが出来ない。
- ⑤ その他



トラツグミの柵（写真）

トラツグミ：外からの侵入者が入らないように、鳥柵が一番細かい正方形。



フクロウの柵（写真）



タカの柵（写真）

フクロウ、タカ：縦長の鳥なので、鳥柵も縦長の長方形、くちばしに鋭い爪、掴む力が強いので逃げ出さないようにしっかりとした鳥柵。フクロウは、あまり昼間活動せずじっとしているが、夜は活発に活動している。



ペンギンの柵（写真）

ペンギン：よちよち歩きで逃げ出す見た目ではないが、他の動物園で40cm～60cmの柵を超えて何度も脱走したペンギンもいるそうです。上部はネットの鳥柵で観察しやすい。



ニホンキジのガラス柵（写真）

キジ：桃太郎にでてくるほど有名な国鳥がいました。派手だけれど複雑な模様がガラス張りの柵からよく見えました。飛ぶことは低空で短い距離ですが、足の速さは時速 32km も出るそうです。今日は暑くて、歩く姿は見られませんでした。

5. 感想

副園長さんも聞いたことがないとおっしゃっていた、夜に鳴く“ヒーッ、ヒーッ”を、この研究を通して、ますます聞いてみたいと思いました。

もしかして、“ピ、ピ”とは違うさえずりが聞けると思い複数回、文化園を訪れてみましたが、“ピ、ピ”と言うさえずりしか聞けなかったのが心残りでした。

夜間には文化園には入れないのですが、雨天や曇っている時には、日中でも“ヒーッ、ヒーッ”と鳴いていることもあるそうなので、また観察をするために井の頭自然文化園に行きたいと思います。

ツグミにもいろんな種類がいるのが分かりました。トラツグミも世界にも分布していて、細かな違いもあるかもしれません。またいつかチャレンジレポートで発表出来たらいいなと思います。

<参考文献>

- ・東京都井の頭自然文化園 副園長 田畑様
- ・東京都井の頭自然文化園 “井の頭自然文化園園内マップ”
- ・絶滅危惧種情報（動物）- オオトラツグミ - （環境省生物多様性センター）